

広報クイズ

【応募方法】 はがきに答え、住所、氏名、年齢、ご意見を書いて白根市役所広報係(〒950-12 白根市大字白根1235)へ。締め切りは12月13日(金)必着。正解者の中から抽選で5人に5000円の図書券を、3人に県立自然科学館招待券をペアで差し上げます。

【問題】

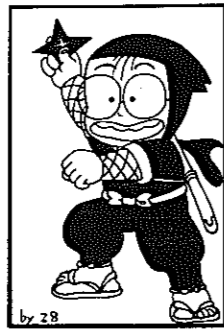
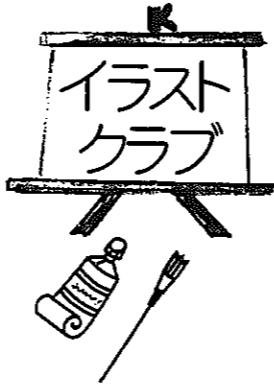
- ①市民海外派遣研修で訪問したのはどこの国？(ヒント=2ページ)
A=ドイツ B=オーストリア C=デンマーク
- ②ふるさと渋谷フェスティバルで販売した農産物はナシと何？(ヒント=4ページ)
A=カキノモト B=ル レクチエ C=コシヒカリ
- ③庄瀬・新飯田中学校は創立何周年？(ヒント=12ページ)
A=50 B=70 C=80

【当選おめでとう】 先月の正解は①B②A③Aでした。【図書券】風間納子(柳筈) 竹内ナツエ(白井) 森野あゆみ(山崎興野) 田村幸枝(堀掛) 山田貢市(上茨) 【自然科学館招待券】 笹川裕子(山崎興野) 伊藤智子(戸頭) 平山光(下道湯)

今月のハガキから

- ◎フリーマーケットに初めて行ってきました。かなりの人出で、にぎやかでした。でんぶ焼きを楽しみに行ったのですが、出ていなくて残念でした。(A)
- ◎いつも「広報しろね」を見ている。ためになることやクイズやイラストコーナーなどが載っていて、面白いです。今度「イラストクラブ」のスペシャルコーナーをやったらどうでしょう？(M)
- ◎毎月イラストのところが入っています。妹たちは今度出してみたいと言っていました。(I)

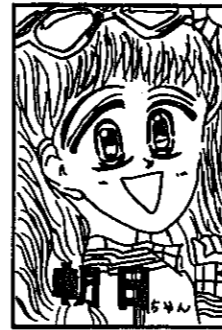
- ◎イラストははがきに黒一色ではっきりと。
- ◎薄い鉛筆書きはボツにします。
- ◎ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢を忘れずに。採川分には粗品を進呈。
- ◎締め切りは毎月15日。それ以降に届いたものは翌月に回します。
- ◎あて先 〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所広報しろねイラスト係



▲P.N 28さん (大通南・43歳)



▲P.N. ライト1さん



▲P.N. 酒井友紀さん (大通南・11歳)



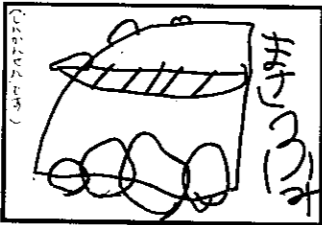
▲P.N. モルル3世さん (大通南)



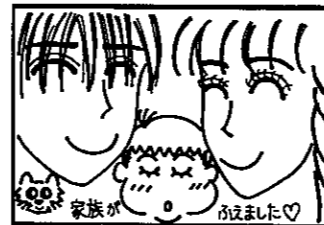
▲牧野 孟さん (鷲巻桜町・8歳)



▲P.N. 影都さん (白井)



▲神山雅史さん (葵町・4歳)



▲P.N. おら悟空さん (能登・23歳)

Talk & Talk 市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画財政課)です。

墓地に許された 百日紅の伝説

文化財保護審議委員会 渡辺 享(下大郷1)

明治の初期、政府は神仏分離令を出し、神社の御神体になつたるもの物具をはじめ、敷地にも石仏、仏木など一切取り払われました。その中で、百日紅は後に植えることを許されたと伝えられています。線香を作る材料になつたからかと思つていましたが、意外にも伝説のためだったので。その伝説とは次のようなものです。

昔、旅の王子が龍神のいけにえに捧げられる娘を救いました。やがて恋に落ちた二人は、百日後の再会を約束しますが、娘はその日待たずに命を落しました。王子の涙を吸った娘の墓から、やがて二本の木が生え、紅と白の花を百日間次々と咲かせたといひます。村人は、娘の悲しい恋の化身であろうとその木を百日紅と名付けたと言います。白根市内の鶴ノ木地内の裏の畑地の中がありました。今、今はどうなつておられるのでしょうか。明治二十一年ころから庭木用として移植された木が多いようです。「百日紅を眺めて年貢をまけてくれ」とはなにごとぞ」などいろいろな話があるようです。染色用、薬用等にも使われたと言ひます。

献体は最後の ボランティア

青木きよ子(大通1)

さわやかに晴れ上がった十月の第二金曜日、恒例の新潟大学脳研究所、医学部、歯学部による第八十六回解剖体祭が西堀十

番町の泉性寺で執り行われまし。一年間で解剖された遺体の数は二百体。三十余名の僧侶の読経、参列された若い医学生や大学関係者、病院の先生、看護婦さん、医師会会長、ご遺族の方々。それに白菊会会員の焼香に心が洗われる思いでした。白菊会会員席には医学の発展のため、自分の死後、解剖用に捧げようとするボランティア精神の方々がばかりが大勢座つています。米寿を迎えてもお、お元氣なおばあさまは、しゃんしゃんした足取りで一番乗り。真珠のネックレス、イヤリングもとてもお似合ひでした。「久しぶりにおしゃれして出掛けてきました」と、人生の達人のお話は明るい話題ばかりです。私は古希の節目の今年、やっと心の整理ができて勇気を出して献体登録しました。六月の「白菊会」のついでに初めて参加し、また解剖体祭などの催しがあることも知りませんでした。

去る十月十三日、カルチャーセンターで催された市民卓球大会は、近年になく一般参加の卓球愛好家の出場者が多く、盛り上がった大会となりました。小学生から子供を持つ主婦まで老若男女が入り乱れ、オレンジ色の小さなピンポン玉に情熱をぶつけて心地良い汗を流し、勝敗に関係なく楽しんでる様子を目の当たりにして、私たち卓球連盟の関係者もとても満足いたしました。

今、卓球がブームとなっております。天才卓球少女愛ちゃんの人気が全国的に広まり、その影響が大きいでしょう。わが白根市も、かつては幾多の名選手を生み出しました。その伝統を守りつつ、さらなる飛躍を祈念してやみません。

市民卓球大会 観戦記

児玉美知子(魚町5)

市民文芸

俳句

雨だれの音のつづきて夜なべかな 小林 すみ
波音を遠くに聞いて柿吊す 豊木サグ子
どの家も屋号杭あり柿赤し 小林 光子
捉へたる風とたはむれ秋桜 安沢 飛浪
なめくぢら桃に食ひ込みみ 山田 孝
小豆選る隠居仕事に手ごろとか 成沢 素明
新米を炊く古釜に歴史あり 和泉 伸子
能因もかく竹ちたるか秋の風 猪股 南魚
板橋と野菊の残るそんな夜 五十嵐寛吾
命綱解いて一服松手入 吉川八重子
朝四時の病室巡る夜寒かな 五十嵐智恵子
我が手ふと彫刻めける秋灯 樋口 トシ
一病を抱いて幾年枯芙蓉 小林 なお
紅少し残る風情や枯芙蓉 間島きよ子
枯芙蓉空まで枯れてしまひけり 真鳥つぎえ
枝門にはみ出す看板文化の日 小林富沙子
折鶴の色の褪せたる神無月 金子 千代
商ひの少なき市や文化の日 知野信一郎
花火など揚げて田舎の文化祭 田中美根子
越の田のどこも踏色神無月 間島 秀穂

短歌

物忘れ多くなりぬとなく母 村山 和江
それでも永く生きていて欲しい 佐藤 ケイ
少しずつ老いに馴れゆくこととして 佐藤 ケイ
歯の数を神へと還す 佐藤 ケイ

遠足を生徒に合わせおやつとメモ見て語る子は新米教師 山際忠美子
病室の闇に目覚めて我が上を 巡る星座に想いはほろけし 出来島ミサホ
陽のほたり残れる背戸に枝豆を もさつつおればびぐらしの鳴く 星 ハツノ
幾度も見し白鳥の長き群 今朝も鳴きつ、空渡りゆく 淑子
歯ざわりのよき茄子漬かり 亡き母に褒められそうな濃紫の香よ 安達 富美
急カーブ幾つか越えて果境の ダムが織なす紅葉の秋 吉田ミノル

川柳

解卵器を親の温みにしてヒヨコ 高橋祐四雄
公約に鬼の笑いが止まらぬ中 中村 尚治
盲愛が知らず摘んでる自立の芽 西条 ムラ
地に落ちて人の情けを知る石榴 山岡 フミ
定年の賞辞虚しいと思ふ 吉川 彰
直線を走る頑固な父の肩 今井 七郎
奥歯をぐいと噛んで男がみた笑顔 織田 福治
遮断機を降ろした友の背の震え 織田 セツ
シグナルを見落とし妻に叱られる 今日もまた老眼鏡とかくれんぼ 大谷 龍吉
ガソリンが切れそう車に親を乗せ 流れ星消えて転落詩を綴る 後藤マサノ
焦点をずらすと見える黄信子 佐藤 トミノ
いつの日か別れに出会う夫婦著 田村 恒夫
猿を飼う瞳が輝いている少女 今井八重子